



インディゴブルー社長 柴田 励司氏

1985年上智大文卒。マーサー・ヒューマン・リソース・コンサルティング(現マーサージャパン)社長などを経て、2008年カルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)の最高執行責任者(COO)に就任。10年6月から現職。

地道にコツコツと事業を育て、2年前に会社を株式上場させた社長がいる。私が毎週配信しているメールマガジン「人事の目」を購読いただいている縁で、このほど会食し、話を聴かせてもらう機会を得た。名前は明かせないが、ベンチャー企業経営の大切なことを確認させてもらったので、紹介したい。

裸一貫から会社を育て上げたオーナー社長ともなると、その立ち振る舞いが唯我独尊になってしまっている人が多い。これは周囲のせいでもある。よかれと思って付度(そんなく)し過ぎる周囲の姿勢が経営者から澄んだ目と耳を奪う。この社長は違う。謙虚で偉ぶらない。いくつになっても額に汗して仕事をすすむ姿勢が

る。社員は気を使い過ぎることがない。常に自然体でよいのだろう。この会社のホームページには、社長の想いを凝縮した「経営許可書」という文章が載っている。「我が社は、世の中に必要か、無くても良いかと極端に問い詰めたら(神様に問い詰められたら)、残念ながら無くても結構です」という結論に成っています。そして「私を含めて、き出しました。」

1985年上智大文卒。マーサー・ヒューマン・リソース・コンサルティング(現マーサージャパン)社長などを経て、2008年カルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)の最高執行責任者(COO)に就任。10年6月から現職。

目の前の仕事 コツコツと

差別化戦略も必要。だからといってコツコツやることをおろそかにしてはいけない。創業して数年が過ぎると、創業の精神よりも目の先の数字に追われることがある。株式上場が視野に入っている経営者ならば、お金を集めて実現させ収益を得る。事業が軌道に乗ってきたら別のことを始める。実務には関係がない。投資家と言っ

てよい人も少なくない。言動も派手である。世の中で持てはやされるのは、このタイプだ。しかし、この華やかなタイプの中にも凡事徹底の人はいる。世の中で次に求められることは何か。それを知るための感度を高めようと徹底的にいろいろの人に会い、話を聞く。雑誌などの2次情報ではなく、自分の目と耳で1次情報を取り

に、これらを徹底している。創業して数年が過ぎると、創業の精神よりも目の先の数字に追われることがある。株式上場が視野に入っている経営者ならば、お金を集めて実現させ収益を得る。事業が軌道に乗ってきたら別のことを始める。実務には関係がない。投資家と言っ

てよい人も少なくない。言動も派手である。世の中で持てはやされるのは、このタイプだ。しかし、この華やかなタイプの中にも凡事徹底の人はいる。世の中で次に求められることは何か。それを知るための感度を高めようと徹底的にいろいろの人に会い、話を聞く。雑誌などの2次情報ではなく、自分の目と耳で1次情報を取り

また、気づいたことがあると交流サイト(SN)を使って情報を発信している。自ら発信する情報が集まると、本を徹底すること。これ

報の感度を高めるため食だった。